

会食の効用

会食の内容は実に様々である。家族、親戚、友人、仕事関係、初対面の方など、多様なメンバーが居る。料亭、旅館、ホテル、高級料理店、小料理屋、チェーン店、自宅屋外など、多様な場所がある。冠婚葬祭、祝宴、同窓会、日々の暮らし、余暇など、多様な目的がある。したがって、前回の濃い字の「ドレス・コード」と同様、会食は一律ではない。矢張りた30年の一傾向として、「予算ありきで、安くて、飲み放題で。」といった会食が世の中に多いイメージがあるが、それがすべてではないという事を思い起こし、実行に移すべきである。

例えば、数年に一度でよいから、ホテルのレストランで食事会を開催し、従業員の労をねぎらう事があってもよい。社長がその場所を選んだその気持ちも、従業員に必ず伝わるはずだ。「自分のために日々苦勞してくれている従業員に、たまにはうまいものを食べて、酒を飲んで、思う存分楽しんでもらいたい。」という純粋な感謝の気持ちである。そのような社長の気持ちを助けてくれるのが、それに相応しい店であり、それが会食の効用である。いい宴が終わった後は、代金の絶対額は高かったとしても、高いとは思わないはずである。

江幡 淳